

世田谷村日記

石山修武

十二月四日 日曜日

十六時十五分新宿で李祖原と待ち合わせ。十七時六本木グランドハイアットホテル、磯崎新氏と会う。Barで話し始め、近くのもうまいソバ屋に移り、二十一時十五分迄。磯崎さんは昨日ヨーロッパ、上海から戻ってきたばかりなのに相変わらずタフで、精神もはずんでいた。李祖原もタフだが、磯崎氏のタフさとは異なるスタイルの強さであるな。

典型的なコスモポリタンになりつつある磯崎と、民族主義（中華主義）者、東方主義者と言っても良い李祖原のちがいであろう。日本も台湾も大陸の端に位置する島国であるが、それでも地政学的相違、歴史の違いが大いにある。その相違から来るものか。李祖原は幼年期に中国大陸から台湾に移り、やがてアメリカに学んだ台湾のリーディングアーキテクトとなり、今、再び中国本土に仕事の場を移し始めている。磯崎は台湾と同じ位の大きさの九州に生まれ、幼年期を過ごした東京で学び、日本のリーディングアーキテクトとなり、今は世界を巡る日々である。李祖原の眼から見た磯崎像というのは面白いかも知れぬ。

十二月五日

朝ミサワ社長に連絡。

十一時李祖原。ミサワ氏との打合わせは七日となる。十三時古市氏来室。共に昼食。十六時迄。修士論文ゼミ。ようやく焦点が合い始めた。二十二時世田谷村。

十二月六日

十一時名古屋左官業加村氏来室、左官再生プロジェクトの件を予定していたが、私のミスで、明日だった。十一時より研究室で李祖原と話す。昼食のサンドイッチをはさみ、十七時迄、ぶっ続けで話す。面白かった。十七時過 社長若松氏来室。ロシアのビジネスの話。十八時新宿で李、若松両氏と会食。二〇時半迄。二十一時世田谷村に戻る。

十二月七日

九時研究室、ミサワ社長、李祖原とミーティング。十時修了。十時半、グッド・ラックと台北に帰る李祖原を送る。名古屋カムラ社長来室。左官再生プロジェクト、と言うよりも左官ガンバレ計画打ち合わせ。十三時迄。さぬきうどんの昼食後雑打ち合わせ。十九時迄。少々疲れて赤ワインをふくむ。近江屋で雑談の後二十一時世田谷村に戻る。